

伝統工芸品に魅了される

3月16日、17日に地場産くるめで「藍・愛・で逢いフェスティバル」がありました。紺や紺製品の魅力をPRするイベント。制作工程を紹介するKASURI R.O.A.Dやファッションショーも行われ、紺ファッションにぎわいました。来場した中川英子さん（諏訪野町）は「50年以上紺のファンです。いろいろなデザインを見るとワクワクします」と目を輝かせていました。



久留米大の学生などがモデルを務め、さまざまな紺ファッションが披露されたショー

音楽の力で心沸き立つ春

3月17日、東町公園で「KURUME MUSIC FEST. 2024」が初開催されました。全国で活躍するミュージシャンや久留米ゆかりのバンドなど14組が出演。地元商店街13店も「フェス飯」を販売しました。それぞれのバンドのファンや、初めて来た人など約8000人が熱狂。観客は、ミュージシャンの熱い演奏に体を揺らし、会場には一体感が生まれました。



久留米出身「THE FOREVER YOUNG (ザ・フォーエバー・ヤング)」が観客のアンコールに応えました

サニーレタスを味わって

3月1日に道の駅くるめで、JAくるめと市が久留米特産サニーレタスを買取客など1000人に配布しました。市が県内有数のサニーレタスの産地ということも広く知ってもらうため、3月2日の「春のサニーレタスの日」にちなみ実施。JAくるめ・リーフレタス部会部会長の森光新司さんは「広い年代の皆さんに食べてもらって、特産品を親しんでほしい」と話しました。



サニーレタスとレシピ集のセットを手渡す森光部会長（左）。会場には長蛇の列ができていました

ツバキと歴史を感じる9日間

3月9日から17日まで久留米つばき園や世界のつばき館、石橋文化センターなどで「久留米つばきフェア」が開催されました。多彩なツバキが咲き誇る中、苗の無料配布やスタンパラリー、ガイドウォーキングなどを実施。オープニングに参加した佐多あやねさん（田主丸町）は「思っていたより花が大きく、バラのような品種もあって、とてもかわいらしいですね」と話しました。



ツバキを眺めるガイドウォーキング参加者の皆さん。地元ならではの話を聞きながら散策しました

給水活動で被災地支援

久留米市は、2月21日から3月16日まで能登半島地震の被災地・石川県能登町で給水活動を行いました。同町は水道管が破損し、被災当初は6200戸以上が断水。市から派遣された職員は給水車で福祉施設に水を運ぶなどしました。派遣された上水道整備課の伊藤雅尚さんは「被害の大きさを改めて実感した。少しでも住民の力になったならば」と振り返りました。



福祉施設に届けた水は、入所者の食事や入浴などに使われました

キッチンカーで公園ににぎわいを

3月8日から市内の9公園で、キッチンカー出店の実証実験が始まりました。公園の利用促進やにぎわいづくりが目的。利用者や出店者のニーズ把握などを行い、本格実施を目指します。初日には、両替町公園にホットドッグやおにぎり、アフリカ料理の3店が出店。多くの人が買い求めていました。実証実験は4月21日（日）まで。場所やメニューなど詳しくはホームページで。



珍しいアフリカ料理を販売するキッチンカー

デジタルでも情報発信中

QRコードとアイコンでアクセス可能なデジタル情報発信先:

- ホームページ
- YouTube
- くるっば公式X
- LINE
- ライン
- 広報取材日記
- くるっばぐらむ

4月から市公式フェイスブックに代わって市公式ホームページで「広報取材日記」を開始。紙面に掲載できなかった取材写真などを紹介します。

多言語翻訳はGoogleレンズで

広報久留米の多言語翻訳アプリ「カタログポケット」での配信は3月31日（日）で終了します。Google（グーグル）レンズを使うとさまざまな言語で広報久留米を読むことができます。

※ QRコードは株式会社デンソーウェブの商標登録です

TV・ラジオで放送中

KBC テレビ d ボタン

- ①テレビでKBCを視聴
- ②リモコンの「d」ボタンを押す
- ③市の情報を最大12項目表示

ドリームス FM (76.5MHz)

- ・広報くるめラジオ版 (月～金 12時5分)
- ・インクルージョンのin久留米 (土 14時48分。お笑い芸人が久留米のよかとこを配信)



インクルージョン (福岡よしもと)

今月の表紙

「チャリチャリ」で春を満喫



4月1日からシェアサイクルサービス「チャリチャリ」が開始。鍵の開閉や支払いはスマホを利用し、市内の移動が便利に。